

令和6年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間) 最終

和庄中学校区 校番14 呉市立本通小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
確かな学力	学力の向上	主体的・対話的で深い学びにつながる思考力・判断力の育成	○校内全体では、達成値を90%と目標値を上回っており、60%未満の児童が6%だった。 ●目標値は達成しているが、どの学級においても児童の定着が二極化している。既習の内容が定着しきれていない児童が数名おり、学習の個人差が大きい。 ●色んな教科の学習の中で問題解決に関する情報(キーワードや公式)等を見つけ引き出し活用する力に弱さがある。 ○「和庄中学校区授業モデル」による自己評価アンケート(①発問の工夫 ②ICTの活用 ③思考ツールの効果的活用)では、達成度92%と、深い学びにつながる授業づくりを意識しているといえる。 ●③の思考ツールの活用については、達成値が目標2.5に対して1.3と自己評価が低かった。 ●全国学力・学習状況調査の平均正答率は国語63%、算数56%であり、国語、算数どちらも県平均を下回った。 ●国語では、前後の文脈を読み取り、適切な語彙を使用することに課題があり、算数では、問題場面をイメージして、言葉や数、式を用いて記述することに課題があった。	・キュービナを授業や学力アップタイム等で活用し、個に応じた課題に取り組みせ、基礎的・基本的な学力を身に付けさせる。 ・ペア、グループ、全体と色々な形態で個の考えを引き出し、集団で練り合ったことを基に、自分の考えを再構築する時間を確保する。 ・思考ツールを活用し、個々の考えを可視化しながら主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善を行う。校内研修等で思考ツールの効果的な活用の仕方について共通理解を図り実践交流を行う。 ・国語においては、読書活動をさらに充実させ、語彙を広げ、目的に応じた適切な語句を選択したり、使用したりするための言語活動を設定する。算数においては、問題場面をイメージし、解き方や求め方を理由を挙げて説明することができるようにする。説明に必要なキーワードを全体で確認し、それを使ってペアや全体で説明させる活動を仕組む。
		自分の命は自分で守る児童の育成	○避難訓練の事前・事後指導を大切にし、「自分の命は自分で守る」という意識を高めている。 ○災害の種類に応じた身の守り方についてICTを活用して学習したり、学んだことを振り返ったりすることができた。	・2学期は学年に応じた指導計画に基づき、外部講師と連携を図って専門的視野にたった授業作りを実践する。 ・学校で学習したことを家庭や地域に発信し、防災意識をさらに高める。
豊かな心	和庄中学校区スピリットに基づく児童(生徒)の育成	粘り強くやり抜く児童の育成	○生活目標について、毎日帰りの会で振り返りを行い、意識付けを行うことができた。 ●4、5の生活目標(気持ちのよい挨拶)と6、7月の生活目標(忘れ物0)での達成度に差がある。 ●教師の見取りと児童の自己評価に差がある。	・朝の会にも生活目標を確認することで、生活目標を意識して1日を過ごせるようにする。 ・忘れ物など、学校だけでなく家庭でも呼びかけが必要な目標については、通信などを利用して保護者にも呼びかけ、学校と家庭が一体となって児童に指導できる体制をつくる。
		礼儀正しく感謝の心をもつ児童の育成	○企画運営委員会が、靴そろえや挨拶について、放送や表彰などの肯定的評価を行ったことにより、主体的に取り組む児童が増えた。 ●返事と靴揃えはできない児童が固定化してきている。	・返事については、できた時にはしっかりと評価をし、できていない時にはやり直しを徹底する。 ・靴揃えについては、企画運営委員会の評価を引き続き行うとともに、できている学年の靴箱の写真を掲示するなど、手本となるものを示す。
健やかな体	健康促進・体力の向上	体力・運動能力の向上	●新体力テストの種目で、全国平均を上回る運動は65.6%と、昨年度より5.4%下がり、目標値を超えることができなかった。 ●「くれチャレンジマッチスタジアム」等、取組が十分でないものがあつた。 ●種目別でみると、握力と50m走に課題がある。全国平均に達していない児童の割合でみてみると、反復横跳びや立ち幅跳びの種目も低い数値となった。	・体育授業において、準備運動の際に、つきたい力を意識した運動を取り入れる。また、授業前のサーキット運動は、鉄棒や雲梯を使って握力、腹筋力を鍛えることに加え、ダッシュ運動やスキップを取り入れて走力を高めていく。 ・各学年で学期に2回以上「くれチャレンジマッチスタジアム」に取り組むことで、意欲的に体力づくりをしようとする児童を育成する。 ・休憩時間の外遊びを全学年で意識づけし、ドッジボールやおにごっこ等の遊びを奨励する。
		基本的な生活習慣の確立	○参観日に合わせて、保護者に向けた動画を流すなど、生活委員会の啓発をより効果的にするために時機を検討したことが、成果に繋がった。 ○担任による毎日の確認や声かけにより、多数の児童に改善がみられた。	・事前の生活委員会による啓発の時期や方法を工夫する。 ・「元気子週間」中の担任による確認や声かけ、事後の児童・家庭への発信などを行い、年間を通じて児童・家庭の意欲を維持できるような体制をつくる。
働き方改革	教職員の主体性・積極性が発揮できる教育環境の整備	児童生徒と向き合う時間の確保	○既存の取組内容を見直し、児童の実態に即した教育活動に組織的に取り組むことで、児童の変容を見ることができ、教職員の充実感につながった。 ○短縮日課の設定や、学年ブロックでの取組を進めることで、教材準備や評価効率が向上した。	・個に応じた支援の充実に向けて、児童の組織的な実態把握に務める。児童の自己肯定感や自己存在感を高めるための効率的かつ効果的な取組を充実させることで、教職員の主体性・積極性を高める。 ・外部人材を積極的に活用し、教職員自らも専門性を身に付けることができるよう、人材バンクの整備等に務める。